

2021/8/6-2

(うと Q 世話し endless 「安くていいもの」 legend)

前の記事で食材の値上がりを商品価格に反映するのは

「我が国のお国柄、特に当地域の特性からして至難の業」

と書きましたが特に文系インテリ高年齢夫婦層の多い当地域では次の様な言葉に必ず出くわしいつも頓挫しておりました。

曰く

「いいものを安く、が当たり前よね」

とか

「いい物を安く提供するのが経営者だろうが」

とかです。

「いいものを安く」というのは「お値段以上●●●」に代表される様に価格対効用比アップ、即ちコストパフォーマンスアップという意味では文句のつけ様のない正しい文言です。

しかし実際には

「(絶対条件としてまずは) 安くて (是も絶対条件として一点欠ける事なく) いいものを」が実態。

要は

「いいとこ取り万歳」

確かにハイコストパフォーマンスな物の提供、それが 1 回や 2 回の事であるなら「あらゆる偶然のプレゼントを適応して」実現可能かもしれませんが、それが 5 回 10 回、いや毎回となると話がまるで変わってきます。

100 円のものに、500 円の価値相当が VA (価値分析) などでできた。OK です。

二回目も 100 円のものに更に 500 円、トータル 1000 円分の効果を盛り込めた。

あるかもしれません。

しかしその先 100 円のものに毎回 500 円分の価値効果が追加され続けるというのはいり得ない話です。

同じ柳の下で同じ様にまるまる太って脂の乗ったドジョウを 100 回捕まえるなんぞありっこないでしょう。

ありえない事を「ある様に見せかける」と何が起こるかと言えば

「不正」

です。

ステルス値上げ、ステルス手抜き、ステルス品質ダウン、ステルスインチキ検査等等。

「安くていいもの」(いいものを安くではなく、です)

を殆ど挨拶代わり、或いは「取りあえずの枕詞として言うだけは言っておきましょうよ」態度で決まっておっしゃる方の多くが文系インテリ夫さんに嫁いだ文系インテリ「専業」主婦さんです。

あたかもそうする事が「専業」の外すべからざる役目であるかの様に。
そうしてそれが無言の大きな圧力や超えがたい壁となって立ちはだかっている。
しかしそのオマケの枕詞みたいなものがひょっとすると

「不正の遠因」

である気がしないでもありません。

このオマケの枕詞に対して

「いい物は手間や素材を掛けた分値を上げないと消費者以外に生産者でもある貴方のご主人の給与と同額減る事になりますがいいですか？

となったらさてその専業主婦さんはどう答えるのでしょうか？

「安くていいもの」と「高くていいもの」どっちがいい？

と訊かれれば

「安くていいもの」

と答えるに決まっています。

しかしその誘導尋問と「安くていいもの」が無際限に提供されるという神話が

「不正の温床だ」

となった時、その不正を防ぎ本当にいい物を手に入れるには

「高くなるのが必定」

で

「それを認めてあげない事にはご主人初め共働きの奥さん単身就労のお兄さんお姉さんがやる気をなくしてしまう」

という事実早く気づいた方がいいなと思い始めております。